

平成29年度学校自己評価システムシート (国際学院中学校高等学校)

目指す学校像	建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を身に付けた人材の育成
--------	----------------------------------

重点目標	1 豊かな人格形成 2 確かな進学指導 3 選ばれる学校づくり 4 国際理解教育(ユネスコスクールとして)の推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者評価委員	5名
	第三者評価委員	5名
	事務局(教職員)	13名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(2月16日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	○建学の精神「誠実」「研鑽」「慈愛」「信頼」「和睦」のもとより具現化するために、教育目標・教育方針「礼を尽くす」「場を清める」「時を守る」を実行している。また、生活の重点目標として「身だしなみ」「話を聞く」「けじめ」等、人間教育に重点をおいた豊かな人間性を備えた【人づくり教育】を実践している。	①生徒指導・人権教育の充実 ②学校行事・部活動の充実 ③地域、関係機関との連携	○挨拶、清掃活動、頭髪・服装等の基本的生活習慣に係わる指導の徹底。 ○「生徒指導から進路指導」「授業規律の確立」をテーマに、授業姿勢に対する指導。 ○部活動、学校行事への積極的参加の奨励。 ○問題行動の未然防止、天災に備え、地域・各関係機関との連携の強化。	○挨拶、身だしなみに対する意識が向上した。 ○チャイム授業等、主体的な学びができた。 ○部活動の加入率および参加・実績が向上した。また、生徒主体での行事運営ができた。 ○日常的に学校開放、防火防災訓練、問題行動の未然防止に取り組めた。	①学校行事への積極的な参加、リーダーシップを発揮する生徒が増え、生徒主体の取り組みが目立ち、学校の雰囲気が良くなった。(B) ②部活動において、全国大会出場等の実績を残し、各部の活躍が目立ち始めた。(B) ③開放講座や小中高連携授業などに積極的に関わることができた。(A)	B ○授業への取り組む姿勢については継続して指導が必要であるが、生徒だけの努力ではなく教員が自己研鑽し、魅力ある授業を展開していくことが必要である。 ○校則に対する理解を再認識させ、生徒が能動的に規則を守ることができるよう意識を高めていく必要がある。
2	○進路実績を向上させるためには、一般入試を受験する生徒をいかに増やしていくかが課題である。また現状の学力で入ることができる上級学校を探す傾向にあり、志望校のレベルを下げない指導を行っていく必要がある。保護者の意識を高めるために、資料配布や説明会を計画的に実施していく。	①進路実績の向上 ②キャリア教育の推進	○進路活動の見直しを持たせる。 ○各学年主任と連携。 ○学校推薦大学入試合格者のセンター試験全員受験。 ○コース制の状況に合わせた進路指導の実施。 ○保護者向け説明会の定期的開催。 ○特別奨学生制度の見直し。	○進路計画について配布した。 ○各学年主任と情報を共有し、指導に当たることができた。 ○受験に向けて、全体で取り組む姿勢が見られた。 ○コースの特性に応じた進路指導を行うことができた。	①今年度は特選・特進コースの在籍者が少なく、一般入試の結果次第であるが、現時点では昨年度の実績を下回っている。四年制大学への進学率は昨年度(65.5%)より現時点(72.2%)で上昇している。(C) ①次年度に向けた特別奨学生制度の見直しの検討を始めた。(B) ②専門学校希望者向けの保護者説明会を実施できた。(A)	B ○近年一般入試を受験する生徒は増加傾向であるが、上位コースの人数に応じて進路実績が下降してしまう。次年度以降、広報募集部と連携して普通科在籍者数を増やす工夫が必要である。 ○保護者の意識を高めるために、資料配布や説明会を計画的に実施していく。
3	○2年連続1700名以上となる志願者数となった。今後も定員充足、上位コース入学者の増加を目指し、分かりやすい広報募集活動に取り組み、1800名以上の志願者数をを目指す。 ○中学校、高校普通科の入学者確保へ向けた取り組み。 ○広報媒体ツールとしてネット活用の比重を高めていく。	①質の高い広報媒体の制作 ②志願者数の増加 ③中学校訪問、塾訪問校数 ④魅力ある学校説明会の実施 ⑤外部会場相談会等の参加者数	○HPの適時更新とリニューアル。 ○受験サイトの活用。 ○中学受験者掘り起しの為、小学5、6年生対象のプレテストを実施。 ○適切な時期の中学校訪問、塾訪問。 ○説明会での生徒の活用。 ○重点地域における外部相談会等への参加。	○HPの更新頻度は適切であった。 ○受験サイトの活用。 ○受験サイトのブログ等を活用した広報が行えた。 ○中学校や塾に対して適切な情報提供ができた。 ○学校説明会、個別相談会は充実していた。 ○外部会場相談会の参加者が増えた。	①HPや外部サイトのブログ等を利用した広報活動の中で更新のタイミングが遅れた点があった。(B) ②3年連続で、高校志願者数1700名超となった。(A) ③塾訪問数は昨年を上回った。(A) ④生徒による司会や発表を取り入れた説明会を実施できた。(A) ⑤外部相談会で昨年以上の参加者を得た。(A)	A ○中学校、高校普通科志願者増へ向けた具体的施策を検討する。 ○HPのタイムリーな更新による情報発信に努め、見やすい画面構成等リニューアルを実施する。 ○受験生・保護者向けにスマートフォンによる情報提供を充実させる。 ○全教職員体制での募集活動の一環とした訪問計画を策定する。
4	○ユネスコスクールとしてESD(持続発展教育)を推進しており、特に国際理解教育を中心に日本初となるIFW(国際理解教育)の推進 ○ESD(国際理解教育)の推進 ○GTECや英検での成績向上に向けて取り組んでいる。一方、ESD自体への理解が不十分なまま学校行事の一つとして取り組まれてしまう場面があり、課題として残る。	①英語教育の充実 ②IFW(国際理解教育)の推進 ③ESD(国際理解教育)の推進	○英語を学ぶ機会の充実(英検、GTEC、英単語グランプリ)・KOKUSAI Method(英検Week)の取り組み。 ○国際理解を深める機会の充実(IFW(International Friendship Week)・異文化学習会・異国料理学習会・留学生の受入・海外生徒との交流・古着回収運動)。 ○ESDに関する講演や説明会の実施。	○各種検定試験の上位級受検者、合格者の増加につながった。 ○生徒が主体となるIFWの実施ができた。 ○学習会や交流に向け目的やESDへの理解を促し、意欲を高めることができた。 ○ユネスコスクールの理念やESDについて理解を深めることができた。	①英検準1級所有者2名、2級所有者16名、準2級所有者116名、GTEC500点以上の生徒数38名(B) ②IFWの開催を通して、実行委員の生徒を中心に主体的に交流することができた。(A) ③スリランカ料理学習会を実施し、五峯祭で販売することができた。(A)	A ○学年・教科の分担見直しを図りながらKOKUSAI Methodによる着実な基礎力向上をさらに推進していく。 ○日本初となるIFWの開催で培った海外学校との交流を継続して行っていく。 ○継続的に新入生や新任教職員へのESD研修を行っていく。

学校評価	
実施日	平成30年2月23日(学校関係者評価) 平成30年2月28日(第三者評価)
評価委員からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は落ち着いており、少人数できめ細かな指導がなされている。 ・教室や廊下等の掲示物などからも建学の精神とリンクしており、それに基づいた教育が実践されていることがうかがえる。 ・チャイム授業は担当者の意識が一番大切である。担当者がチャイムより先に教室に行く意識が重要である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・KOKUSAI Methodはよく考えられている。生徒が「伸びたと実感できる」というスローガンはいい。 ・魅力ある授業では生徒だけの努力ではなく、教員の自己研鑽が必要であると分析していることは素晴らしい。 ・マルチ学習システムなど新しい取り組みで生徒の学習につながるとうい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・以前、こちらの学校にお世話になった生徒がいて、その母親のすすめで妹も入学したという兄妹のケースがあったが、面倒見がいいことの証である。 ・学校説明会の影響はとても大きく、参加した生徒が印象に残っている学校の感想を述べてくれる。自信をもって学校の良さを伝えることが大事である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・IFWを日本初のホスト校として開催できたことは大変有意義であった。国際理解教育の基本は自国理解と確固たる自己を持っていることであるから、今後もそのような生徒を育ててほしい。 ・世界とつながっていると視野が広がり、夢や志を大きく持って飛躍につながる。海外研修やユネスコスクールとしての活動など、海外との交流を積極的に行っている点が良い。 	